

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第44週[11月1日～11月7日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

検査速報 ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生について

幡多福祉保健所管内の保育所で嘔吐・下痢の症状を有する集団発生があり、有症状者から11月6日(土)に採取した検体から今シーズン初となるノロウイルス(GII)が検出された。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、例年12月中旬から1月にかけて流行がみられており、今後、県内でも増加が懸念される。予防には手洗い・うがい、食品の十分な加熱等が必要である。

県内情報

○ 患者情報総評

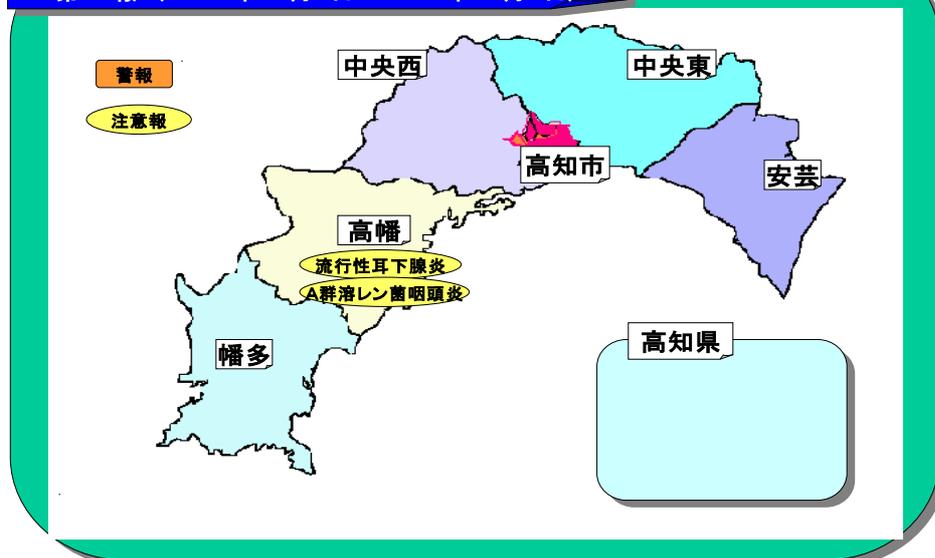
注意報発令疾患：なし

- 今週も、晴れの日が多かったが、最低気温が10℃を下回る日もあり朝晩の冷え込みが厳しくなってきた。感染性胃腸炎やインフルエンザ等の冬型疾患がやや増加した。今後は注意が必要である。
- 感染性胃腸炎は第35週以降、50例前後の報告数で推移していたが、中央東を除く地域で増加し、総数は約1.5倍に増加した。
- インフルエンザは第11週以降、0～3例の報告数で推移していたが、高知市と中央東から計15例の報告があった。例年高知県では12月に入ってから報告数が増加してくるが、今冬シーズンは流行の立ち上がりが見られることも考えられ、今後の推移に注意が必要である。
- マイコプラズマ肺炎と咽頭結膜熱は動向が注目されたが、今週は減少し注意報値を越す地域はなくなった。



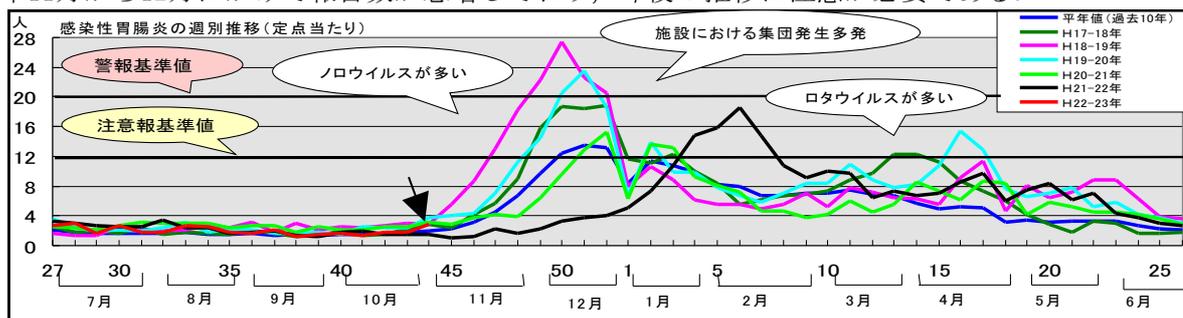
地域別感染症注意報・警報発生状況

第44報 (2010年11月1日～2010年11月7日)



感染性胃腸炎：今週2.83（注意報値：12.00 警報値：20.00）

例年11月から12月にかけて報告数が急増しており、今後の推移に注意が必要である。



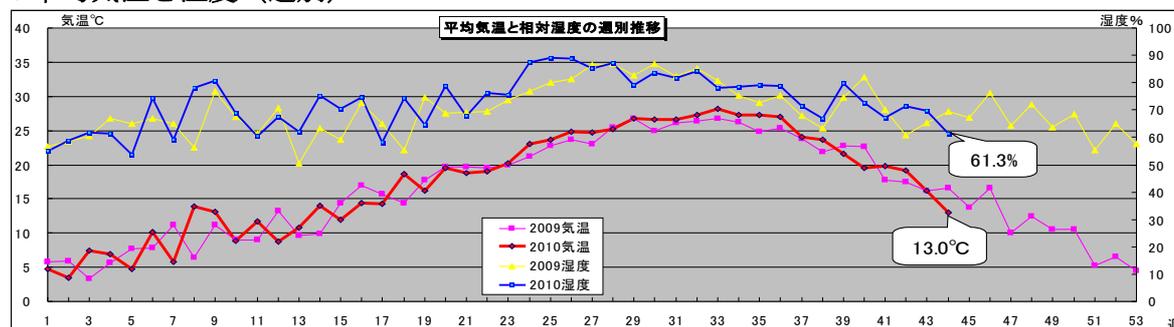
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
43	感染性胃腸炎	4歳 男	高 幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
43	感染性胃腸炎	3歳 男	高 幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
43	感染性胃腸炎	14歳 男	高知市	<i>Salmonella</i> Enteritidis
43	感染性胃腸炎	13歳 男	高知市	<i>Salmonella</i> Enteritidis
44	マイコプラズマ肺炎	11歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
41	咽頭結膜熱	1歳 女	高知市	Adenovirus 2
42	咽頭結膜熱	2歳 男	高知市	Adenovirus 3
44	インフルエンザ	1歳 女	高 幡	<i>Influenza virus AH1pdm</i>

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例（31歳女）《須崎》（今年134例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：ヘルペス性口内炎 1例（1歳男）

マイコプラズマ感染症 1例（11歳男）

《松谷内科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1例（27歳女）は迅速キットで陽性

高幡：

《もりはた小児科》：マイコプラズマ肺炎 1例（3歳女）

中央西：

《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（17歳女）

《くぼたこどもクリニック》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の1例（8歳男）は須崎市

高知市：

《福井小児科・内科・循環器科》：マイコプラズマ肺炎 1例（10歳女）

アデノウイルス陽性 2例（1歳女，3歳男）

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 2例

マイコプラズマ肺炎 3例（5，10歳女，11歳男）

カンピロバクター腸炎 1例（5歳女）

《塩見クリニック》：インフルエンザの2例（1，5歳女）はA型陽性

《高知医療センター》：インフルエンザの1例はA型陽性

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：アデノウイルス咽頭炎 4例（10, 11ヵ月, 5歳男, 5歳女）
マイコプラズマ肺炎2例（7歳女, 12歳男）
インフルエンザの2例（12, 13歳男）は迅速キットでA型陽性, 同じ学校で
典型的な症状を呈していたがウイルス分離は陰性（1件）
百日咳の1例（25歳女）は東浜株2560倍, 山口株2560倍

全国情報第42週（10/18～10/24）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核325例

3類感染症：細菌性赤痢12例、腸管出血性大腸菌感染症62例（有症者36例、うちHUS 1例）

4類感染症：つつが虫病3例、デング熱3例、日本紅斑熱2例、日本脳炎1例、マラリア1例、レジオネラ症12例、
レプトスピラ症2例

5類感染症：アメーバ赤痢13例、ウイルス性肝炎3例（B型2例、C型1例）、急性脳炎1例、クロイツフェルト・
ヤコブ病5例、後天性免疫不全症候群19例（AIDS 4例、無症候13例、その他2例）、ジアルジア症2
例、梅毒6例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例、麻しん5例

報告遅れ：細菌性赤痢4例、エキノкокクス症1例、デング熱2例、レジオネラ症3例、急性脳炎3例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例

◆感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因によるものを包含する症候群名である。全国約3,000カ所の小児科定点からの患者発生報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測されている。また、患者発生のピークは例年12月中となることが多く、同時期の感染性胃腸炎の、特に集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものであると考えられてきた。

ノロウイルス感染症の潜伏期間は数時間～数日（平均1～2日）で、主な症状は嘔気・嘔吐及び下痢であり、嘔吐・下痢は1日数回から多いときには10回以上のこともある。しかし、症状持続期間は数時間～数日（平均1～2日）と比較的短く、以前から他の病気がある等の要因がない限りは、重症化して長期にわたり入院を要することは少ない。また、発熱の頻度は高くはない。治療では特効薬はなく、対症療法となるが、最も重要なことは水分補給によって脱水を防ぐことである。

ノロウイルスの感染経路としては、以前は食中毒としての経口感染がよく知られていたが、患者や無症状病原体保有者との直接もしくは間接的接触による接触感染や、患者の嘔吐物や下痢便を介した飛沫感染等のヒト→ヒト感染があり、その感染力は非常に強い。乳幼児の集団生活施設である保育所や幼稚園、小児の集団生活施設である小学校等においては、これら接触感染や飛沫感染等により、集団発生が繰り返されてきているものと推察される。また、2006年12月の東京都豊島区のホテルにおいて発生した集団感染事例のように、「吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために残存したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激によって舞い上がり、それを間近とは限らない場所で吸引し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路」である「塵埃感染」が発生する場合がある。ノロウイルスの感染予防には、流水・石けんによる手洗いの励行と吐物や下痢便の適切な処理がきわめて重要である（感染症情報センターホームページ「家庭等一般の方々へ」：<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taioa.html>、「医療従事者・施設スタッフ用」：<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-b.html> 参照）。

感染症発生動向調査によると、全国約3,000カ所の小児科定点からの感染性胃腸炎の2010年第42週の定点当たり報告数は3.70（報告数11,202）と、前週（定点当たり報告数3.05）よりも増加した。都道府県別では、大分県（10.31）、山形県（9.47）、佐賀県（6.96）、福井県（6.82）、長崎県（5.91）、宮崎県（5.75）、三重県（5.38）の順となっている。第42週は、41都道府県で前週の報告数よりも増加がみられているが、特に山形県、大分県、佐賀県、新潟県、福井県での報告数の増加が目立っている。2010年第1週から第42週までの定点当たり累積報告数は291.47（累積報告数882,268）であり、年齢群別では0～1歳22.7%、2～3歳21.1%、4～5歳17.5%、6～7歳11.4%の順であり、5歳以下で全報告数の60%前後を、7歳以下で70%以上を占めているのは例年と同様である。

新型インフルエンザの流行がピークを迎えつつあった2009年の秋季から冬季にかけて、感染性胃腸炎の流行は例年と比べて小さなものとなったが、過去10年間の第36週以降の報告数を比べてみると、2010年は2006年に次ぐ高い水準を概ね推移している。これまで感染性胃腸炎の報告数は11月に入ると急増し、12月の中旬以降（第50～52週）にピークを迎えるという流行を毎年繰り返してきている。感染性胃腸炎の今後の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(43週)	高知県(44週未累計) H22/1/4~H22/11/7
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ		2	13				15 (0.31)	2 (0.04)	728 (0.15)	2,573 (53.60)
小児科	咽頭結膜熱			4				4 (0.13)	15 (0.50)	608 (0.20)	364 (12.13)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	17	1	4	2	29 (0.97)	28 (0.93)	3,199 (1.06)	910 (30.33)
	感染性胃腸炎	13	6	22	7	6	31	85 (2.83)	56 (1.87)	13,650 (4.51)	7,744 (258.13)
	水痘		7	21	2	1	2	33 (1.10)	29 (0.97)	2,416 (0.80)	1,718 (57.27)
	手足口病		1					1 (0.03)	4 (0.13)	1,167 (0.39)	3,226 (107.53)
	伝染性紅斑		1					1 (0.03)	5 (0.17)	837 (0.28)	230 (7.67)
	突発性発疹		5	5	1	1	1	13 (0.43)	13 (0.43)	1,627 (0.54)	556 (18.53)
	百日咳			1			1	2 (0.07)	1 (0.03)	103 (0.03)	71 (2.37)
	ヘルパンギーナ		1					1 (0.03)	1 (0.03)	267 (0.09)	1,024 (34.13)
	流行性耳下腺炎		1	2		5	4	12 (0.40)	13 (0.43)	3,077 (1.02)	230 (7.67)
	RSウイルス感染症		2	7		2		11 (0.37)	4 (0.13)	1,275 (0.42)	799 (26.63)
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	8 (0.01)	2 (0.67)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	3 (1.00)	410 (0.60)	71 (23.67)
基幹	細菌性髄膜炎								0.00	14 (0.03)	11 (1.57)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	12 (0.03)	18 (2.57)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	7 (1.00)	282 (0.61)	81 (11.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									15 (0.03)	23 (3.29)
計 (小児科定点当たり人数)		13 (6.50)	31 (4.32)	94 (7.99)	11 (3.67)	20 (10.00)	40 (8.00)	209 (6.71)			
前週 (小児科定点当たり人数)		10 (5.00)	32 (4.57)	81 (6.45)	11 (3.67)	21 (10.00)	27 (5.20)		182 (5.68)	29,695	19,651 (616.00)

定点当たり

第44週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(43週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ		0.18	0.81				0.31	0.04	0.15
小児科	咽頭結膜熱			0.36				0.13	0.50	0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.71	1.55	0.33	2.00	0.40	0.97	0.93	1.06
	感染性胃腸炎	6.50	0.86	2.00	2.33	3.00	6.20	2.83	1.87	4.51
	水痘		1.00	1.91	0.67	0.50	0.40	1.10	0.97	0.80
	手足口病		0.14					0.03	0.13	0.39
	伝染性紅斑		0.14					0.03	0.17	0.28
	突発性発疹		0.71	0.45	0.33	0.50	0.20	0.43	0.43	0.54
	百日咳			0.09			0.50	0.07	0.03	0.03
	ヘルパンギーナ		0.14					0.03	0.03	0.09
	流行性耳下腺炎		0.14	0.18		2.50	0.80	0.40	0.43	1.02
	RSウイルス感染症		0.29	0.64		1.00		0.37	0.13	0.42
眼科	急性出血性結膜炎									0.01
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	1.00	0.60
基幹	細菌性髄膜炎									0.03
	無菌性髄膜炎								0.14	0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	1.00	0.61
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.03
計 (小児科定点当たり人数)		6.50	4.32	7.99	3.67	10.00	8.00	6.71		
前週 (小児科定点当たり人数)		5.00	4.57	6.45	3.67	10.00	5.20		5.68	

2010年週報推移(定点当たり)

